

令和5年度 立花吾嬬の森小学校の学校経営方針について 令和5年4月

墨田区立立花吾嬬の森小学校 校長 向井一郎

○新型コロナウイルスとの戦いも、次の段階へと移行しようとしています。これまで各教育活動は様々な工夫を通して行うようにしてきました。タブレット端末の活用もその中の一つです。児童がその活用に慣れてきました。この期間の取組を通して様々な学習方法が生まれてきました。その中で感じていることは、当たり前前の教育活動の大切さです。それは「よく考え、仲間かかわってさらに考えを深め、発表し合いながら知識を得ていく学習」です。そこで得た学習方法や知識が積み重なり、それぞれの児童が大人になった時に一人で生きていくための「生きる力」になるのです。1年生から6年生まで、それぞれの発達段階の中で、その力の基礎を身につけ、「ゆめ」に近づいていってほしいのです。立花吾嬬の森小学校で働く全ての人の方の力を一つにして、それを支えていきます。

○昨年度、開校15周年記念事業の中で、全校児童がそれぞれの「ゆめ」をしっかりと持っていることが分かりました。素晴らしいことだと思います。今抱いている「ゆめ」がさらに「目標」となるように力をつけてあげる場所が学校です。学ぶ力だけではなく、人間関係を深める力、生活力、災害等から身を守る力など、あらゆる力を身につけさせてあげたいです。

以上のような思いや、墨田区が掲げる教育課題※などを加味し、今年度の教育課程を作成しました。

※墨田区教育施策大綱における児童の未来像

- ◎ 将来、社会で活躍し、地域に貢献できる自立した人
 - ・感性豊かでいろいろなことに興味・関心をもって学び、実践できる人
 - ・自己肯定感を育みながら、まわりの人の立場や気持ちを思いやることができる人
 - ・スポーツや遊びを通じて、健やかな体を育むことができる人
- ◎ 郷土に誇りをもち、異文化とも敬意をもって積極的に交流できる国際感覚のある人

教育目標

身体も心も健康で、思いやりの心を持ち、よく考え学ぶ子供

基本方針・・・「ゆめ」に向かって自ら学んでいく子供を育てる。「自学自修」

明日が待ち遠しくなる学校・・・ひとこと言えば

- ① 学ぶことが楽しい学校・・・学びの保証
 - ・勉強がよく分かり、さらに多くのことを知りたくなるような授業がある学校
 - ・困った時に、安心して聞いたり、相談したりすることのできる先生のいる学校
- ② 自分のことを安心して表現できる学校・・・人間関係づくり
 - ・ひとりひとりの良さが教師からも、友達からも認められ、安心して自分のことを表すことのできる学校
 - ・自分のことも大事にし、友達のこと大事にすることができる子供たちのいる学校
 - ・しっかりとあいさつができ、友達、先生、地域の人々とも気持ちよくかかわることができる学校
- ③ 子供たちのために、大人が力を合わせる学校・・・連携・協働
 - ・教員が「チーム」として、同じ方法を目指し、互いを磨きながら成長していく学校
 - ・保護者や地域の方々が、子供たちのために力を貸したくなるような学校

目指す学校像

・子どもたちの笑顔のために、教職員が互いに指導力を磨き合い、チームとして進んでいく学校

目指す児童像

・ゆめの実現のために目を輝かせて、学習に主体的に取り組むことのできる児童
・自分のこと、友達のこと、自校のこと、地域のことを好きだと胸を張って言うことのできる児童

目指す教師像

・児童のゆめの実現のために学び合い、努力を続ける教師

「ゆめ」を育む教育の実践のために

1 確かな学力の向上

日々の授業の工夫

- ① 読む力、書く力、話す力、聞く力を伸ばす授業づくり
 - ・様々な学習の中で読解力、表現力を高める。
 - ・表現する場を学年に応じて工夫してつくる。タブレット端末の効果的な活用
 - ・読書好きの児童をさらに増やす。

② 課題解決の力を伸ばす授業づくり

・児童が身近な事象の中から不思議だなという疑問を見つけ、調べてみようという気持ちを抱き、主体的に学んでいこうとするような授業展開を心掛ける。

(墨田区、地域には学習材となるものが多く眠っている。それらも活用し生活科、理科、社会科などの授業展開の工夫していく。)・・・校内研との連携

③ 話し合い、考えを深めることのできるような授業

・教師と、友達と、相互にやり取りをしながら、自分の考えを深めるような場면을意図的に設けた授業を進める。

(タブレット端末も活用するが、従来の黒板と児童のノートを活用する授業も大事にする。)

日々の学習の工夫

① 目的をもった家庭学習を進める。

※宿題から、自学へつなげていく。・・・各種復習教材の効果的な活用

② 朝学習の時間を生かし、読書、基礎学習、前単元の振り返りを行う。

※読書習慣を身につける。

(多くの児童が身につけている中で活字に慣れていない児童もいる。)

③ 補習の時間を設け、次の学習に進む前の不安を取り除く。(振り返り学習の充実)

環境を生かす

① タブレット端末を生かした授業の工夫

自分で撮影したり、映像などを見たりして、具体物を通した授業の工夫

② 区学力調査、東京ベーシック・ドリルや診断テストを活用した学力の把握により、一人一人の力をつかんで指導を進める。

③ 地元、地域の教材を積極的に生かし、直接本物や人物に触れるような授業づくりに心がける。・・・昨年度の校内研の成果を生かす。力を貸してくれる方の発掘。

2 豊かな心の育成

① 特別の教科道徳の時間では、よく考え話し合いながら自己を振り返ることができる場面をつくる。

② 異学年交流の場を増やし、上級生は下級生を意識し、下級生は上級生にあこがれの気持ちを抱くことができるようにする。(6年生が手本となっていく。)

③ 学校内、学級内での人間関係づくりを進めるために、仲良し遊びの時間を設けたり、自主的な係活動などを工夫したりする。特に、コロナ禍の中で他人に対する警戒心が強くなっている。不審な者への警戒心をもつことは大切であるが、日常の中での子供同士の普通のやり取り(挨拶やさりげない言葉かけなど)が今よりも増えることを目指したい。

④ ふるさと(墨田区 立花)を意識した教育活動を進める。結果として自校、地域

を大切にしたいという気持ち生まれ、地域の一員であることを学年に応じて意識することを目指す。(昨年度の取組で意識が高まっている)

3 体力の向上と健康増進

連携

- ① 基本的な生活習慣が定着するように家庭との連携を強化する。

COCOO やシャボテンログなどの有効活用

- ② 区教育委員会や保健所との連携し、。

実践

- ① 体育の授業内容を充実させ、時間内での運動量が増加するように心がける。
- ② 休み時間の遊びが充実するように、体を使った遊びの呼びかけをする。
- ③ 日々の生活の中で環境の衛生に気を付ける。(感染症対策も忘れない。)

4 特色ある教育活動

- ・「立吾しぐさ」を大事にする。
- ・幼稚園、保育園、中学校とも連携し、それぞれの機関との円滑な接続を進める。
- ・地域の環境を生かした教育を進める。(ものづくり、神社、川、団地、商店街など)
- ・地域の人材を生かした教育を進める。(ゲストティチャーの積極的な活用)

5 特別支援教育・教育相談体制の充実

- ・なのはな学級の運営の充実を図るための工夫をする。
- ・巡回指導の充実を図るほか、校内での児童の情報を共有できるようにする。
- ・「個別指導計画」「学校生活支援シート」などの作成を個別に行う。
- ・すべての児童が安心して生活できるような教育環境づくりをする。
- ・生活指導連絡会等を生かし、児童についての共通理解をする場を設ける。

(週一回の連絡会での情報交換)

- ・スクールカウンセラーにより、面接や相談の場を増やしていく。
- ・年3回のいじめアンケートやiチェックなどにより、児童の生活の様子をつかみ、生活の実態や抱える問題を把握する場を増やす。

6 開かれた学校づくり 地域、保護者との連携

- ・PTA との円滑な情報共有、協働を進める。
- ・学校だより、ホームページ等を通した学校の様子を保護者に知らせる努力をさらに推進する。(更新、作成を計画的、定期的に行う。)
- ・学年、学級から保護者への発信※も工夫して行うようにする。

※昨年度の保護者アンケートの中に、校内の様子が見えにくいという声を多くいただきました。学校公開、保護者会、各種お便りの作成などを充実させるように工夫していきます。

- ・学校運営連絡協議会の充実を図り、地域の声が、学校経営に反映できるようにする。(学校関係者評価の結果も生かす。)